



井野 葉由美を支える会 実行委員長 緒方 賢一

「人生において私たちが成しうる最も強力なものは『祈り』です！」

祈りの教会であるタイムズ・スクエア・チャーチの前牧師であるカーター・コンロン師の言葉です。これを読んだ時、言わずもがなですが、祈りというもの、特に「教会を挙げての祈り」が宣教における最優先事項であり、霊的戦いにおいて敵の攻撃をものともせず前進するために必要不可欠なものだと強く覚えさせられました。

あのアンティオキア教会も礼拝で断食して心ひとつに祈る中、バルナバとサウロを宣教に遣わすようにとの聖霊の声を聴き、二人を送り出し、祈りによって二人と共に宣教に立ち続けました。その彼らの姿を通して、教会が一体となり聖霊によって祈ることが、今こそ必要だとの迫りを受けています。私たちの教会では、月に一度、井野葉由美宣教師から届くビデオレターでドイツの現状を知り、礼拝で一つとなつて祈るのですが、いつもミュンヘンの街を全員で練り歩き祈っているかのような思いへと導かれます。その時、確信します。私たちは宣教の補助的役割や、ただの後方支援を担っているのではなく、共にその地に立ち、宣教しているのだと。現在、ドイツは想像以上に深刻な状態です。ドイツ人のクリスチャンがこのようなことを言っておられたと井野師から聞きました。

「最近はいエス・キリストを信じていることを公で言えないような風潮がある。」

「ドイツも、いよいよ宣教師を送っていただく必要のある国になった。」

多少の違いはあれど、これはヨーロッパ全体の現実ではないでしょうか。しかし、希望は決して失われていません。井野師が言いました。

「自分がクリスチャンであり、宣教師であることをドイツの人に伝えると、「なぜ日本人が!？」と驚かれ、話を聞いて下さるのです!イスラム教徒やユダヤ人も、仏教の国と思っている日本人の話は警戒心無く聞いてくれるのです!」

今こそ、ドイツやヨーロッパの国々へ、かつてそこから福音を伝えていただいたように、日本から一人またひとりと宣教師を遣わす時ではないでしょうか。あのアンティオキア教会のように、聖霊に導かれつつ教会が一つとなつて祈り、共に御声を聴き、一致と確信を持って新たな一人を遣わして行く。ヨーロッパにおけるリバイバルの火種になることを大いに期待して。(奈良福音教会牧師)



奈良福音教会のドイツ宣教祈禱



レナセール教会

在原 繁・津紀子
アルゼンチン

「恐れるな。わたしはあなたとともにいる。たじろぐな。わたしがあなたの神だから。」(イザヤ書 41 章 10 節)

戦後 80 年が過ぎようとしている現在、「不安」が今ほど地球全体を覆ったことは無かったように思います。今や世界は、隅から隅まで不法、混乱、戦争の嵐の只中へと置かれているようです。

恐れに支配されていては、人は明日に向かって前進することが出来ませんが、主は「恐れるな!」という宣言をもって聖徒を励まし、「恐れるな」という御言葉は聖書に 365 回出てくるそうです。何回であろうと数など問題ではありません。歴史を支配される全能の神が宣言されるので、これほど確かなものはありません。続けて「神の愛」に心燃やされながら、眼前に備えられた使命を果たしていきたく願っております。「愛には恐れ

がありません。全き愛は恐れを締め出します。」(1ヨハネ 4 章 18 節)とあるからです。

長女ルツ子夫妻の牧会する「レナセール教会」を紹介します。レナセールとは日本語で「新生」のことで、夫エンリケ君と共にこの教会に派遣され 9 年が経ちました。牧会とはいえ、働きは「再建事業」と言うのが正しいかと思います。何故なら、一時は 200 名にまで教勢を伸ばしましたが、サタンによって一気に瓦解してしまいました。前任の牧師は追われるように去り、傷を負った羊たちは離散していきました。城の石垣は崩れ、祭壇は荒れ放題となり、聖なる「臨在」は教会から去りました。サタンは憎悪、妬み、高慢など、人間の罪の渦巻くところを「足場」として介入し、聖なる地にとぐるを巻こうとして、いつしか、牧師の陥った不信仰、傲慢、金銭欲・・・を足場にしようとした。9 年前の開戦時、エンリケ・ルツ子夫妻は「祈りの祭壇」を建てあげることで全き献身を表明しました。体得した「キリストの心」は羊のために苦勞する勇気を与えられました。牧師も信徒も「互いに愛し合う」との宣言は、「臨在」(平安、賛美、喜び)の満ちる教会へと造り変えられました。現在の教勢は 60 ~ 70 名です。お祈りください。(繁)



ノルウェー、オスロ JCF

井野 葉由美
ドイツ

各地で災害が起こり、戦争がより身近になってきました。現在、災害に遭われている方、戦争の中で暮らしている方に主の守りがありますように。

今回は、数年前から顧問牧師として関わっている、ノルウェーのオスロ JCF について書かせていただきます。オスロ JCF は 80 年代に集会が始まって以来、無牧で集会を続けている群れです。私は 2007 年から毎年 1 回オスロに赴くようになりました。コロナ前までは月 1 回の礼拝と、それに続いて伝道パーティーが行われ、オスロ在住の日本人がクリスチャンでなくてもコンタクトを求めて、多数集められていました。しかし、コロナ時期には集まることができなくなり、逆に月 2 回の日曜夜の礼拝と月 1 回の祈り会をオンラインで行うようになりました。未信者の方々への伝道はストップしたような形でしたが、ノルウェー

の遠方の方や、ヨーロッパ各地の、周りに日本人クリスチャンがおられない方々がオンラインだからこそ参加できるようになり、クリスチャン同士の交わりと祈りは深められてきました。コロナが落ち着いて対面での礼拝が可能になったので、一昨年から年 2 回オスロでの対面礼拝(その時は私もオスロに行きます)、それ以外はオンラインでの礼拝と交わり会を続ける体制に移行しています。普段のオンライン礼拝ではみんなで声を合わせて賛美ができないので、会衆賛美の喜びは格別です。昨年は春と秋にコンサート礼拝を行い、以前来られていた求道者が来てくださり、「イエス・キリストを信じたい」という方や、「これからオンライン礼拝に出席したい」という方が起こされました。これらの方々のフォローがこれからの課題です。オスロ JCF 役員のお一人は、オスロから長距離バスで 8 時間離れた場所から、年 2 回の対面礼拝に来てくださっています。このことから、海外在住日本人の日本語での礼拝にける意気込みがお分かりいただけると思います。オンラインでは行えない聖餐式も執り行うことができ、キリストに在って一つとされている喜びを味わうことができました。



あなたを良い地に

安川 圭吾・美穂
タンザニア

いよいよ 3 月 5 日の本帰国まであと 1 か月となりました。神様のなさることは私たちの思いを遥かに超え、インド人教会は、主の御手によって新しい地に植え替えられようとしています。昨年 12 月に KLPT 教団の議長に私たちの本帰国と、ハニット兄の奥さんのプリヤンカを牧師として任命したいと伝えました。(今まで、ハニットに市民権が与えられるように祈ってきましたが、私たちの本帰国までには間に合わず、リーダーの中で一番年下のハニットが教会を率いていくためには、皆から牧師として認識されることが必要不可欠でした。そんなある日、賛美主事のデイビッド兄弟がウルトラ C のアイデアを思いつきました。タンザニア国籍のプリヤンカを牧師として任命すれば、KLPT 教団ではその伴侶も自動的に牧師になれるというものでした。最初は荒唐無稽な感じがしましたが、プリヤンカに打診すると、

もし他に方法がなければやりますとのことでした。そして驚くことに教団議長は、プリヤンカでなくハニットに直接挨拶して良いと言ってくださいました。ところが、その週の KLPT の集会の中で、教団議長はそれを覆す発表をされたのです。その内容は①ハニットはタンザニア人ではないので牧師にはなれない。②インド人信徒は KLPT 本部教会の朝 8 時 30 分の礼拝に必ず出席すること。その上であれば、夕方にヒンディー語の礼拝を持っても良い。③ KLPT 本部から長老をインド人信徒の監督として派遣する。④これらの条件に従えないのであれば KLPT に留まることは出来ない、と事実上、KLPT に吸収合併される内容でした。召しも重荷もない長老が監督になったら、教会がバラバラになるのは明らかです。なぜ突然、発言内容が変わってしまったのかを議長の下におられる牧師先生に尋ねると、最近、ご高齢のため言うことがこころ変わるということがよくあるとのこと。インド人教会のリーダーたちに伝えると、みんな失望して、イエスさまが十字架にかけられた後の、まだ主が復活なさることを知らない弟子たちのような雰囲気になってしまいました。(次号へ続く)(圭吾)



12月25日のチャレンジ

長澤久美子

韓国

新年が明けるやいなや能登半島の地震と津波、翌日は海保機とJALの衝突事故。本当に心痛み、悲しいニュースでした。主の助けと哀れみを信じ、速やかな復興を祈ります。世界でも二つの戦争が続き、2024年は一体どんな年になるのでしょうか。しかし分かっていることは、こんな中でも御国の到来は確かに近づき、私たちは目を覚まし、終わりの時に生かされていることを肝に銘じ、神と人々に仕えつつ上からの力で福音宣教をしてまいりましょう。

さて、去年のクリスマスに江華イマヌエルろう者教会は二つのチャレンジをしました。それはクリスマスの賛美。一つ目はスーザン・ボイルのSilent Nightを選曲しASL(アメリカの手話)で、二つ目には手話の言葉、ハングルも良く身についてない姉妹方3人を含む5人でクリスマスソングを。賛美リーダーは私。

創作ダンスと手話をアレンジし、11月末から猛練習。賛美の意味と手話、動きにも天からの知恵と力をいただきつつ、頑張った一！のです。良く前に立って手話を手伝う賛美がありますが、私は余り好きではありません。何故なら「ただのものまね」になるからです。主に内容のある良き物を献げ、主がその賛美の香(こう)を嗅いで受け入れて下さることを願い、祝して下さるようにと願うからです。私も賛美は手話も、声を出して歌うのも大好きです。でも手話が皆の言葉。練習中、叱責されては気分を害し、褒められては喜び、嫌われたりもし、時々苦勞もするのですが、一人一人の賛美が段々身について、自分のものになって美しく上手に歌えるようになるのを見る時エキサイトします。当日は服装も揃えて、緊張しながら、しかし手を合わせ、主に栄光をと祈りつつクリスマスの賛美を。私も皆も感激でいっぱい。ハレルヤ!! ヤッター! 中々の出来栄で、見ている兄弟姉妹たちも拍手喝采。頑なな心の魂たちが、賛美を通して自分の心を身体と手話で表せたことで、天の恵みをいただいたのです。いつも変わらぬお支え、お祈りが背後にあると信じ、とても感謝です。今年もどうぞ宜しくお願いします。



日韓の架け橋として (田内千鶴子)

朴ダニエル・任妍貞

韓国

1938年10月、韓国人男性の尹致浩さん(ユン・チホ)と結婚した高知県出身の田内千鶴子さんは、父親の仕事で韓国・木浦に移住し音楽教師をしていた。その頃、孤児施設「共生園」を運営していたキリスト教の伝道師致浩さんと出会い、結ばれた。

結婚2年後に長女、さらに長男が生まれ、子育ての傍ら、約70人の孤児たちの世話に明け暮れる毎日だった。そして迎えた日本の敗戦、妻が日本人ということで、住民から「親日派」と攻撃され、千鶴子さんの身にも危機が迫った。長男の尹基(ユン・ギ)さんは、「母を助けたのは共生園の孤児たちでした。『たとえ日本人でも、私たちの母です』と体を張って守ってくれた」と語った。夫の尹致浩さんが共生園の食料を援助を求めて出かけたまま行方が分からず、千鶴子さんは一人で粉骨砕身、園の

運営に励んだ。半島で戦争があった1950年代が、孤児ら500人以上を抱えて最も苦しい時期だったようだ。孤児たちは学校を卒業すると共生園から出て行く決まりだった。「皆が就職できるわけではないのに、送り出さないといけない。それが最も辛い」と千鶴子さんはこぼしていたという。100人余りの孤児たちに見守られながら過労が原因で1968年に56歳で天に召された。

千鶴子さんが32年間に育てた孤児の数は2,995人。韓国政府は、千鶴子さんが亡くなる5年前の1963年、文化勲章を贈り、その功績に報いた。日韓国交正常化前で外国人女性への授与は初めてだった。

千鶴子さんが死の直前につぶやいた言葉がある。病床で長男の尹基さんにこう言ったそうだ。「梅干が食べたい」と。苦難に満ちた人生の終わりに、頭をよぎったのは日本への望郷の念だったのだろうか。私たちは田内千鶴子さんの崇高な愛の一生を振り返りながら、使徒パウロの言葉を胸に刻みたいと思う。「さて、主の囚人である私はあなたがたに勧めます。召されたあなたがたは、その召しにふさわしく歩みなさい。謙遜と柔和の限りを尽くし、寛容を示し、愛を持って互いにしのびあい・・・」(エペソ4:1~)(ダニエル)



目を上げて畑を見よう

高橋真一・千恵美

モンゴル

宣教の教会としてお買い下さいと祈っていると、主は思いもよらない方法で用いて下さる。昨年末からずっと途切れずに宣教師インターンを私たちの教会に送って下さっている。フランスから、イタリアから、アメリカから。彼らは日本宣教を示されて本格派遣の前に日本を体験する目的や宣教団体をリサーチする目的で来日する。中には奉仕団体は既に決まっているのに、そちらの団体の施設にステイしないで私たちの所にステイする人も。その他にも短期でオランダの神学校からフランス人が来て、シンガポールの神学校からモンゴル人が来た。カレンダーを数えると年末から4月上旬まで、海外からゲストもインターンもない日は数える程。いつも誰かが教会に宿泊している。そして、その期間中にも私たちはモンゴルに行く。私たちの3月の現地奉仕に日本の神学生をインターンとして帯同する。感謝

なことに世界宣教の動線が入り乱れてきた。世界が世界に宣教する時代だ。

支える会を共に担って下さっているヒルズチャーチには、昨年後半から礼拝に5~6名の留学生が集っている。以前から近所の大学の祝福を祈っていたが、ここにきて急に。「世界宣教は我が町にありました」とメンバーが証して下さった。

街の中に世界がある。行きつけのコンビニでアルバイト店員さんから「アナタ、キョウモ、マタキタネ」と声を掛けられた人もいた。例えば私の住む大阪最南端の人口1.5万人の町でもスーパーで普通にベトナムの若者と出会う。

1997年頃、私は導きを求め祈っていた。タイミングよく隣町での宣教集会、安海靖郎先生がゲスト講師。メッセージ後に「私のためにお祈りして下さい」と願い出たら、安海先生がこうアドバイス下さった「開かれた扉に進みなさい」あれから四半世紀以上、思わぬ扉が開いている。「あなたがたは、『まだ4か月あって、それから刈り入れだ』と言ってはいませんか。しかし、あなたがたに言います。目を上げて畑を見なさい。色づいて、刈り入れるばかりになっています。」(ヨハネ4:35)(真一)

懐かしい友だち



宇井英樹・由美

国内 国際教会牧会

年末に懐かしい友だちが訪ねてくれました。KとSは私たちが第一の宣教地にいた時に、国際教会NLFと一緒に音楽の奉仕をしていました。NLFが圧力を受けて、公同の礼拝を捨てなくなりホームチャーチになった時、彼らはその一つを担当しました。数年後、私たちのホームチャーチを彼らと合併し、一緒に礼拝を続けました。また主幹牧師不在の期間、彼らと私たち、そしてもう二組で教会をリードしてきました。彼らは、楽しい時、苦しい時を共に過ごした主にある「戦友」です。

彼らは年末年始を日本で過ごし、私たちの教会の礼拝に参加しました。十数年ぶりでしたが、時間のブランクを感じることなく、親しく交わりました。彼らは、私たちが変わることなく主に仕えていることを喜んでいました。忙しさの中に、しばしの憩いの時間を持つことができました。

12月24日、日本ホーリネス教団東京中央教会のクリスマスイブタ拝で、由美はサクソで「牧人羊を」を演奏しました。2年連続して機会をいただき感謝でした。元旦には、東京ホライズンチャーチの元旦礼拝で、「イエスがいるから」を演奏しました。由美は第一の宣教地では毎週、礼拝賛美でサクソを吹いていました。TNLICでは、毎週の礼拝賛美のリードと奏楽で精一杯で、とてもサクソを吹くような状況ではありません。主からの賜物を用いさせていただき感謝です。

1月、英樹は、侍プロジェクトで奉仕をしました。侍プロジェクトは、大変個性的な働きです。神学校に行く前に、主の導きを吟味する機会を提供します。聖書を学び、それぞれの教会で奉仕しながら、み言葉を語り主に仕える人となる成長の場です。英樹は、これまでの働きを紹介し、そして今日日本が世界宣教の舞台であることを話しました。また、牧師にとって安息日を守ることの大切さを話しました。皆さん、とても興味を持って聞いてくださいました。自分の教会外で奉仕する機会をいただき感謝しています。今年、主が私たちの地境を広げてくださることを期待しています。(英樹)



集会所兼牧師館完成！

高橋央也・恵

インドネシア

インドネシア・ジャカルタでの働きのためにお祈りくださり感謝します。ようやく1月17日から新しい集会所兼牧師館に移り住みました。あれ、まだできていなかったの？と思われたかもしれませんが、これもゴムの時間（編集者注：ゴムのように伸びる）インドネシアです。現在も工事業者は出入りしていますが、教会を思わせるような少し尖った屋根の外観と、高く設計された天井と白を基調にした内装の素晴らしい建物になりました。先代牧師の時代に建築が決定され、皆様の信仰によって開始されたプロジェクトの完成を見させていただいています。

この建物での最初の集会は、3歳児までのお子さんを対象にした親子広場となりました。日本生まれの子もいればジャカルタ生まれのお友達もいます。文化や言葉の壁をものともせず、屈託のない笑顔を見せてくれる子どもたちに励まされ、この場

所がこれからもさらに主に用いられて行くように願わずにはおれません。

個人的には引越とは別に年末から慌ただしい日々を過ごしています。恵はビザ発給のスポンサーとなってくださっている会社で日本語教師として働いていましたが、現在は翻訳や企業との打ち合わせをする仕事を行わせていただいています。勤務場所の変更や、求められる言葉のハードルが格段に上がるなか、新しい業務に取り組んでいる恵のためにお祈りください。

邪魔する者との戦いの中にありますが、次のステージがあると感じています。なぜならダビデは戦いの中において、「しかし私は、あなたの豊かな恵みによってあなたの家に行き、あなたを恐れつつ、あなたの聖なる宮に向かってひれ伏します。」（詩篇5：7）と告白し、神のご臨在の中で礼拝する時、「正しい者を祝福し、大盾のようにいつくしみで覆ってくださる」（詩篇5：12）主の勝利を得たのですから。(央也・恵)



お孫さんと

韓国 長澤宣教師

レナセール教会（前列中央にエンリケ師・ルツ子師）

アルゼンチン 在原宣教師





ちえさんの祈りコーナー

数多くの宗教祭事が毎年行われるこの国に福音が広がっていきますように。彼らのたましいに届く神のみ言葉と、創造主なる神の愛が自分たちにも注がれていることに気づきますように。

たましいの飢え渇きを覚えている方々に福音が届けられますように。

・スラムに救いが連鎖して、主の救いを喜んで証する人々が起こされますように。

・迫害やあらゆる危険と感染症から、現地の方々が守られますように。

(お知らせ) ニュースレターをご希望の方は以下までご連絡ください。 e-mail:pray_for_india_fc@yahoo.co.jp



みかさんの祈りコーナー

「私はいつも、私の前に主を置いた。主が私の右におられるので、私はゆるぐことがない」(詩篇16:8)

国民の話題は、2月の大統領選挙で持ちきりです。私たちを取り巻く環境や状況は変わっても、常に変わらないお方を目の前に置き、約束のみ言葉を握りしめ、今年も一歩一歩進んでいきます。

・未伝部族伝道ネットワークの働きの守りと祝福、一致の霊に満たされますように。

・関わっている学生たちの救い、成長のため。良き協力者が与えられますように。

・この者の霊的成長と守りのため。知恵が与えられますように。

次世代のリーダーたちへ チャレンジ

佐藤摂子

アンテオケ宣教会主事

1月18日(休)午後、宇井英樹先生(東京ニューライフ国際教会牧師)と共に侍プロジェクトの授業へ行ってきました。

侍プロジェクトとは、「東京丸の内パートナーシップ」という丸の内のビジネスパーソンを中心に、コーチング、ネットワーキング、聖書の学び、イベント等を定期開催している団体の中のひとつのプロジェクトで、地域教会とパートナーシップを持ち、聖書を教えることのできる次世代のサーバントリーダーの育成を目指している。フルタイム牧師を目指す人たちが、神学校に行く前のインターン制度を設け、主の導きを吟味する機会を提供。牧師見習い生たちは、有給で教会の働きを行う傍ら月に2日の学びを受ける。授業料と教会からの給与の半額を団体から支援し、教会の次世代育成に必要な時間的・経済的な負担を軽減する。(ホームページ <https://www.samuraiprojects.com/ja>)

この見習い生への授業で、宇井先生は宣教師としてのこれまでに働きを紹介し、「教会はその始まりから終わりに至るまでインターナショナル」と話しました。ペンテコステの日、弟子たちが集まって祈っていると、「皆が聖霊に満たされ、御霊が語らせるままに、他国のいろいろなことばで話し始めた(使徒2:4)」その日、「エルサレムには、敬虔なユダヤ人たちが、天下のあらゆる国々から来て住んでいた(5)。」彼らは、彼らの言葉で、弟子たちが「神の大きな御業を語るのを聞いた(11)。」そして、教会の終わりは、このようです。「すべての国民、部族、民族、言語から、だれも数えられないほどの大勢の群衆が御座の前にと子羊の前に立ち」大声で主キリストイエスを賛美します(黙示録7:9)。そして、その礼拝は永遠に続きます(5:13; 11:15)。そして、いま日本が世界宣教の舞台であること、また、牧師・教会奉仕者が健やかに長く働くために安息日を守ることの大切さを話しました。

次に佐藤がアンテオケ宣教会の働きについて、今後必要とされる働き人等について説明しました。

見習い生の皆さんの簡単な経歴をお聞きしたところ、皆さん海外で信仰を持ち日本の教会へ繋がったという方たちでした。世界宣教に関心を持ち、とても興味を持って聞いてくださいました。

その中の一人、藤田ゆずきさんの感想です。「宇井先生が、神様がどのようにコロナ渦でインターナショナルチャーチを導いてくださったのかを証してくださいました。特に印象に残っているのは、宣教が禁じられている国から来た人が日本に来て喜んで福音を語っているということです。日本では宣教が自由であること、神様から与えられた恵みであるということに気づかされました。今グローバルな時代に入り、宣教においても国を超えてお互いに良い影響や新しい視点を与え助け合えることに感動しました。また日本宣教の歴史という縦の文脈で見た時にも、今リバイバルの時にあることを知りました。このような神様の大きな計画に励ましとチャレンジを受けました」

藤田ゆずきさんは、アンテオケのWMM(世界宣教ムービー)チームの一員でもあり、宣教師志願者です。今後の学びと訓練、進路の導きのためにお祈りください！

※写真は侍プロジェクトのスタッフと見習い生たち。前列左端が藤田ゆずきさん。その隣りがディレクター宮下牧人師



アンテオケ宣教会会計報告

一般(事務局)会計収支 (2023年10月1日～12月31日)

収入科目	金額	支出科目	金額
一般献金	750,652	通信費	66,073
宣教師・国内スタッフ献金	300,000	出張費	225,098
アンテオケ分担金	500,000	交通費	102,408
		事務費	9,270
		活動費	112,200
		ニュース関係費	627,126
		IT関係費	35,750
		図書費	1,382
		事務所賃借料	283,800
		スタッフ援助費	782,167
		備品費	45,957
		接待費	47,734
		支払手数料	35,266
		業務委託費	20,000
		諸会費	2,000
		JCE7参加費等	58,257
		研修費	38,500
		源泉所得税	17,833
		雑費	9,853
前月繰越	7,956,772	次月繰越	6,986,750
収入合計	9,507,424	支出合計	9,507,424

献金芳名リスト (敬称略・順不同) 計 213 件

教会及び団体

旭川めぐみ アルゼンチン宣教を支える会 (4) 泉佐野福音 一麦東京 インドネシア福音 (3)
井野師を支える会 (3) 宇井師を支える会 (3) 浦和福音 (2) 江藤みかを支える会 (4)
大磯キリスト (3) 大野キリスト (6) 岡本師を支える会 (3) 桶川聖書 片柳福音自由 (2) 香登 (2)
カナンプレイズチャーチ 可児福音 鹿本キリスト 北見めぐみ 京都シオンの丘 (3)
久遠キリスト 熊本ナザレン (2) 久米麗を支える会 (3) クリスチャンフェローシップチャーチ
グレイスキリスト 神戸希望を支える会 (2) 郡山キリスト (6) 堺福音 札幌福音館 (6)
さんだグレイスチャペル 椎名町 鈴鹿キリスト福音 (3) 西武柳沢 高橋央也・恵と共に歩む会 (3)
高島チャペル (2) 高松シオン (3) 垂水 (7) タンザニアミッション (3) 千代田福音 都賀キリスト
土崎グローリア 東栄福音 (2) 東京若枝 (3) 戸田福音自由 名古屋一麦 (2) 新居浜キリスト
日本イエス教団事務所 (3) 朴師を支える会 (3) 平塚福音 プラトナの会 (3) 本郷台 (3) 前橋キリスト
三島真光 未伝地ミッションを支える会 (3) 南仙台 宮崎北 モンゴルミッションジャパン (3)
八尾福音北九州チャペル 山形響者キリスト 大和キリスト (3) 横浜金沢文庫 栗東キリスト

個人

新江雅宏・裕子 石川秀和・里恵子 井野葉由美 (3) 今西太治 井原敬二 内村郷美 小山田格
甲斐博 (3) 梶井義郎 川上寧・真咲 (3) 菅野昭子 (2) 栗山伸子 小林宮子 サイトウユスケ
小路伸夫 洪澤宝 城山直子 (2) 関谷典子 世利夕起子 仙浩二 高井ヘラー由紀 (3) 高山嘉津子 (3)
竹川正英 寺田進一 飛田成史・紀代美 永井愛実 長澤久美子 猶原順子 浜崎国子 林正敏 (2)
原國聖恵 (3) 福本和代 星出卓也・薫 (3) 本田義廣 (2) 前田秀文・庸子 三浦岸雄 (3) 宮内和子
宮坂玲子 武藤元康 森和亮 森川桂造 山下祐弘 (3) 山田初子 匿名 (13)

*事務局からのお願ひ・・・ご献金のお振込みには、所定の赤色の払込取扱票か、「ゆうちょダイレクト」をご利用ください。

利便性のために、これまでの献金あて先の他に、
オンライン献金を始めました。ご利用いただける方は、
こちらの QR コードからご利用ください。



私たちも世界宣教を応援します！

医療法人社団 塩光会 大田 医院 内科・皮膚科・小児科 聖書研究会 木曜日 14:30～15:30 茨城県筑西市西方 1684-1 Tel. 0296-22-3914	医療法人社団 湯川胃腸病院 心を尽くし 思いを尽くし 知性を尽くし 力を尽くして 全人的に仕える医療と福祉 〒543-0033 大阪府大阪市天王寺区堂ヶ芝2丁目10-2
--	--

●緊急のお知らせ●

今後紙面でなく、PDFでお受け取りを希望する方は、事務局までメールにてお知らせください。また、部数の変更がございましたらお知らせください。jimukyoku@jantioch1977.net こちらからもご連絡いただけます。



●《宣教センタースタッフがらひのこと》

●公式YouTubeチャンネル「じゃむちゃん」が用いられ海外で見てくださっている方から、「懐かしい○○さんの活躍を見て感謝」「ウィクリフのHPにリンクを貼りたい」など連絡がきていて感謝です。(高山)

●今回、奈良福音教会の緒方賢一先生に巻頭言を執筆していただきました。先生は井野葉由美宣教師を支える会の代表と共に、教団の海外宣教委員長をしておられます。ヨーロッパにおける教会の現状やそれを踏まえた宣教の課題などが見えてきます。(菅野)

●日本宣教は、「世界宣教の視点、未伝民族への戦略」から再構築の必要があると、結祈参加者(某教団元海外宣教委員長)よりメールがありました。本当に大切な視点だと思います。(佐藤)

●宣教局センターで奉仕させていただくのも3年目に入りました。年齢以外まだまだ未熟者ですが、主の働きの一部分とされていることを感謝しています。(若林)

●次号二四六号は、二〇二四年六月発行の予定です。